

第75次 印旛地区教育研究集会

国語研究部「書く」分散会 提案資料

自ら学び考え表現する力の育成
～短歌作りを通して自身の感動を伝える～

—資料編—

印旛支部

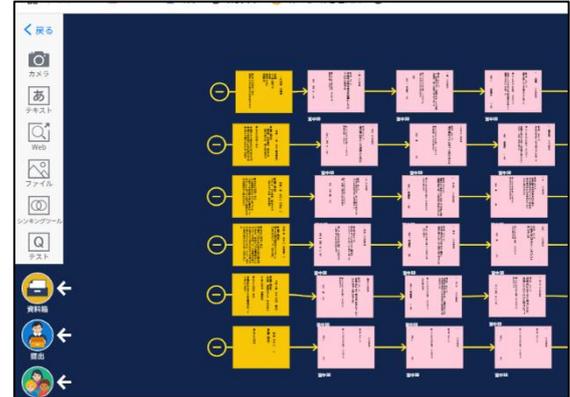
富里市立富里中学校

【ロイロノートを使用しての短歌鑑賞】

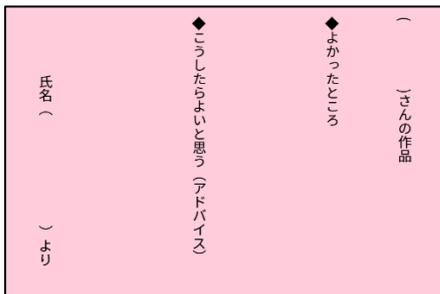
①共有ノートを作成。



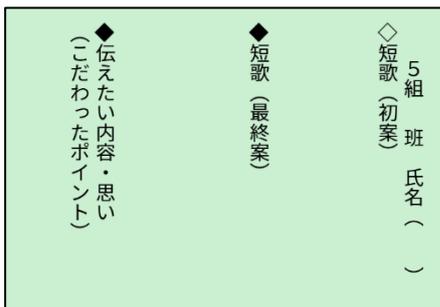
②班のノートに個人用のカードを作成。
それぞれの初案と伝えたい思いや内容を入力。



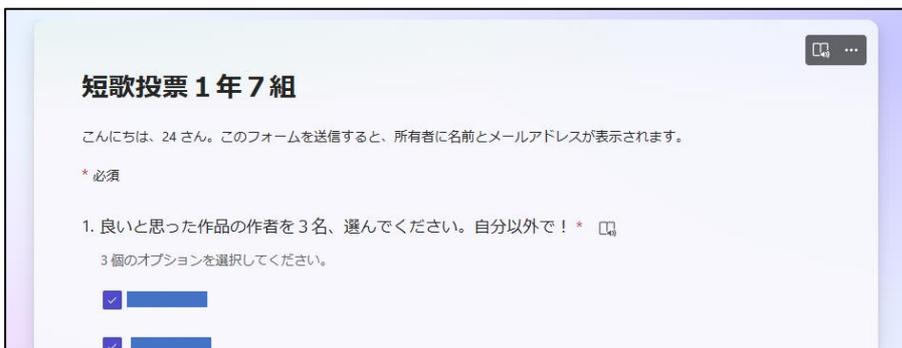
③班の他の人の作品を鑑賞し、感想やアドバイスを入力。(ピンク色)



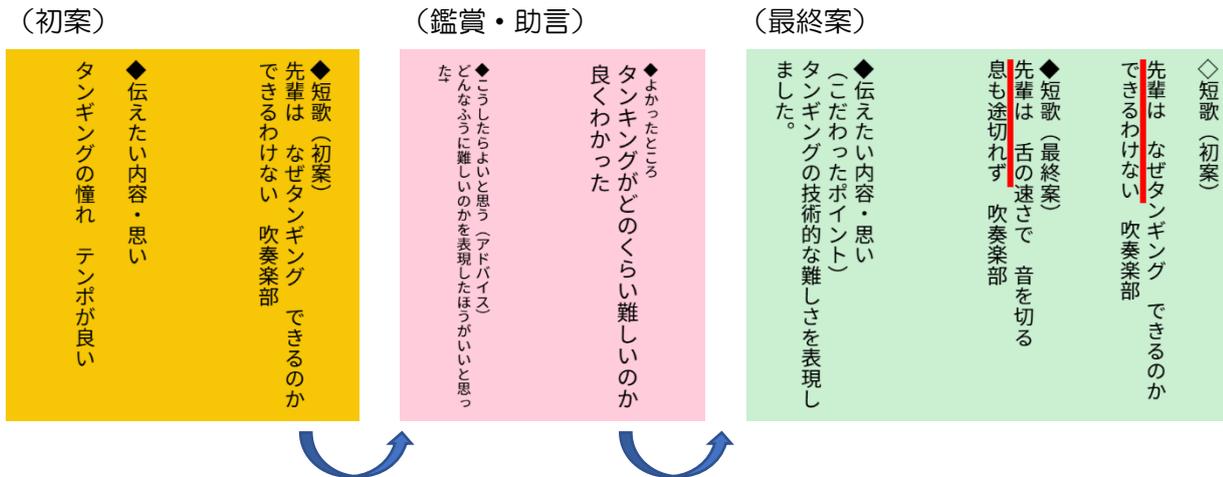
④他の人の感想やアドバイスを参考に、最終案 (緑色) を提出。



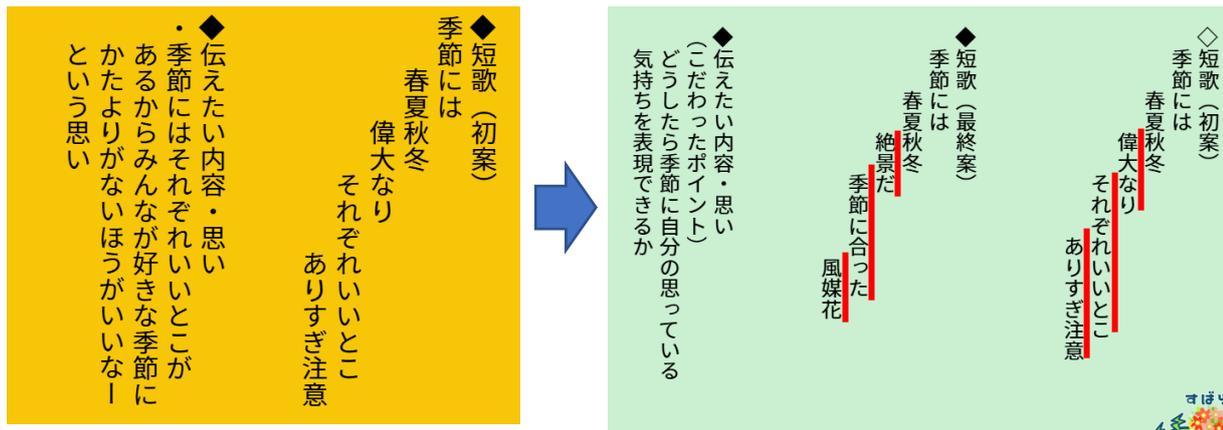
⑤提出箱を共有し、一人3人まで投票。優秀作品を紹介する。



【生徒作品例】



初案では「できるわけない」と否定的な表現だったところを、他の人の助言を受けて「息も途切れず」とタンギングの技術的な難しさの表現に変えることで、先輩に対するあこがれがより強調され、肯定的な短歌になった。



それぞれの季節のよさをどう表現するか、工夫が見られた。「いいところ」を「風媒花」という言葉を用いて季節のイメージを詠もうとした。五音になってしまったので、この後再度推敲を行った。



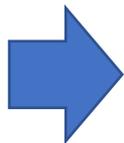
◆短歌（初案）
蝉さえも聴けば黙るシンフォニー
目指すはひとつ「ゴールド金賞」



◆短歌（最終案）
蝉さえも黙るほどのシンフォニー
目指すはひとつ「ゴールド金賞」

◆伝えたい内容・思い
（こだわったポイント）
吹奏楽コンクールに向けての目標を書きました。夏はいつでも蝉が鳴いているイメージがあって、その蝉が圧倒されて黙るような迫力や美しさがある音を出せるようにしたい、そして一番良い金賞を取りたいと思って書きました。

◆短歌（初案）
体育祭 今年優勝と 意気込んだ
リレーは今年も 無念の負け
◆伝えたい内容・思い
リレーの選手に選ばれたが負けてしまったので今年こそと意気込んだが結局負けてしまったという
残念な気持ち



◆短歌（最終案）
今年の 気持ちを胸に 意気込んだ
リレーのために 全力の夏

◆伝えたい内容・思い
（こだわったポイント）
今年こそ勝ちたいという思いをより強調してかいた。

◆短歌（初案）
足運ぶ 恋する人の 教室へ
だけど勇氣は 片道切符
◆伝えたい内容・思い
恥ずかしくて話かけられない気持ちを伝えたいです。



◇短歌（初案）
足運ぶ 恋する人の 教室へ
だけど勇氣は 片道切符

◆短歌（最終案）
足運ぶ 恋する君の 教室へ
けれど話せず 時間は進む

◆伝えたい内容・思い
（こだわったポイント）
休み時間に話に行っただけど話せずに終わってしまう気持ちを書きました。

助言を受けて推敲した結果、思いやこだわりがあり、表現や言葉を変えない生徒もいた。どう変えていいのか迷う生徒には助言をしたり、タブレット等を活用して語彙を探し、言い換えの方法や工夫についてサポートをした。

【生徒作品例】

(初案)

(鑑賞・助言)

(最終案)

短歌

5 雨が降り
7 傘持ち外へ
5 水たまり
7 自分写して
7 足を進める

作品への思い
雨の日外に出るときのこと
つもの行動を短歌に書きました。

感想

- ・ 自分写してのところがいいと思います。

アドバイス

- ・ 足を進めるを歩き進めるでもいいと思います。

短歌 (推敲)

5 雨が降り
7 傘手に外へ
5 水たまり
7 自分写して
7 歩き進める

作品への思い
雨の日外に出る時のいつもの行動を短歌に書きました。

初案では、下を向いている雰囲気が漂う作品であったところを、グループで話し合いを重ねたところ「足を進める」を「歩き進める」と変化させた。「自分を見つめ、顔を上げて歩み出す」明るい意味をもった短歌となった。

短歌

5 跳び上がる
7 大きく高く
5 宙に浮く
7 負けたくないを
7 踏み台にして

作品への思い
部活の大会で「負けたくない」と強く思ったとき技が上手く出来て「負けたくない」が踏み台になって技を成功させてくれたのかもしれないと思ったときのことを表現しました

感想

- ・ 部活の大会で一生懸命取り組んでいることがわかりました。

アドバイス

- ・ もう少し大きく高くのところを工夫してみたら良いと思います。

短歌 (推敲)

5 跳び上がる
7 カエルのように
5 宙に浮く
7 負けたくないを
7 踏み台にして

作品への思い
部活の大会で「負けたくない」と強く思ったとき技が上手く出来て「負けたくない」が踏み台になって技を成功させてくれたのかもしれないと思ったときのことを表現しました

結果を残すためにどういう気持ちで臨めば良いのか考えていた作品。「飛躍する」ことをカエルに見立てて表現した短歌となった。助言の「大きく高く」を的確に表現した推敲となった。

短歌

5 大会で
7 DPになって
5 打席立ち
7 気合を入れた
7 けどフォアボール

作品への思い
大会でDPになってすこく打つ気でいたけど全部ボールでフォアボールだったから。

感想

- ・ 緊張している情景がよく伝わりました

アドバイス

- ・ DPがわからない人もいると思うからもっとわかりやすい表現をした方がいいと思います

短歌 (推敲)

5 大会で
7 バッターになり
5 打席立ち
7 気合を入れた
7 けどフォアボール

部活動で使われる専門用語がグループワークの中で話題となった作品。読んだ時に情景が浮かぶ作品にするためには、専門用語を使うとかえってわからなくなってしまうという話し合いから「バッター」とよく耳にする言葉に変更した。そのことで作品の情景が浮かびやすくなる作品となった。

短歌

5 鐘の音
7 自信あるのに
5 線ゆがむ
7 それでも埋まる
7 回答用紙

作品への思い
テストで自信はあるのに手が震え緊張を感じたから。



短歌（推敲）

5 鐘の音
7 自信はあるが
5 線ゆがむ
7 不安で埋めた
7 解答用紙

短歌

5 打席立ち
7 緊張しつつ
5 バット振り
7 打球は惜しくも
7 グローブの中

作品への思い
自分が打った打球が相手のグラブに入ってアウトになった時の情景が伝わってくる短歌です。



短歌（推敲）

5 打席立ち
7 気持ち張りつめ
5 バット振り
7 打球惜しくも
7 グローブの中

短歌

5 背中追い
7 仲間とともに
5 夢目指す
7 いつかあの場所
7 センターコート

作品への思い
先輩たちみたいに、わたしたちの代でもセンターコートに立ちたいという思いを表しました。



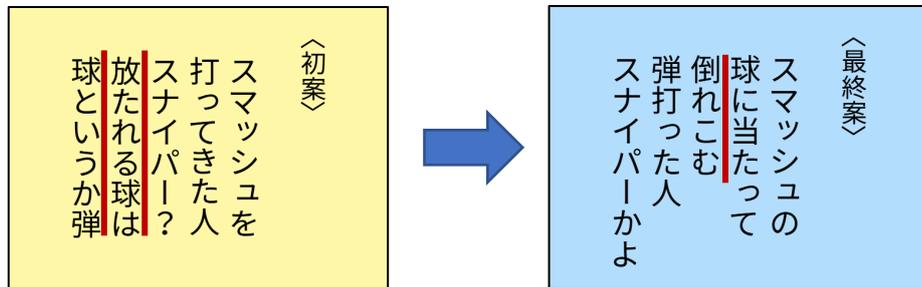
短歌（推敲）

5 背中追い
7 希望の羽音に
5 胸揺らす
7 夢の大空
7 センターコート

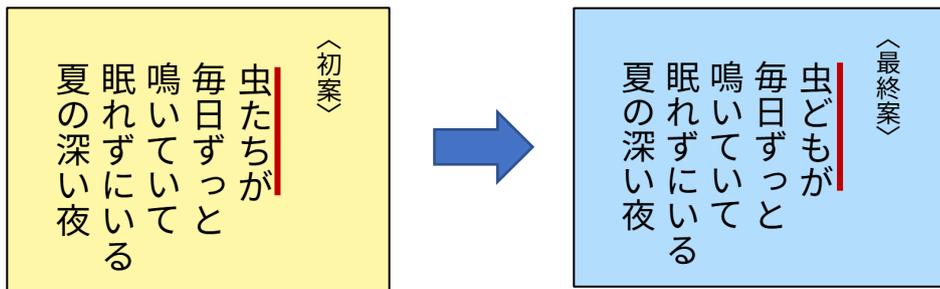
友人からの助言を受けることで、自分の気持ちを整理することができ、伝えたいことやその時々の臨場感を思い描くことができるようになっていった。また、言葉を考えるときに「それかっこいい！いけてる！」と楽しみながら言葉選びをすることができていた。

ただ考えるだけでなく、気持ちを伝えるための表現について吟味する楽しさに気付ける生徒が増えた。

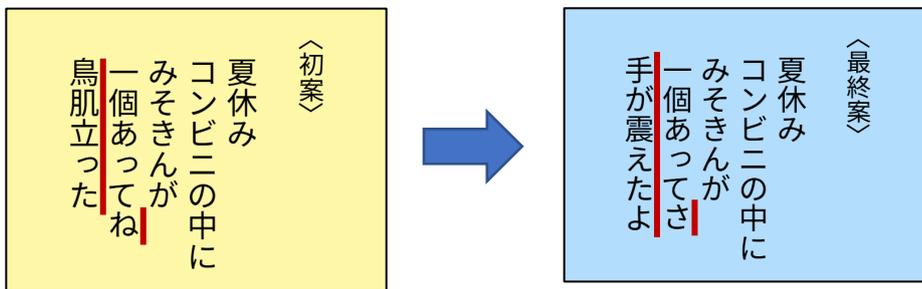
【生徒作品例】



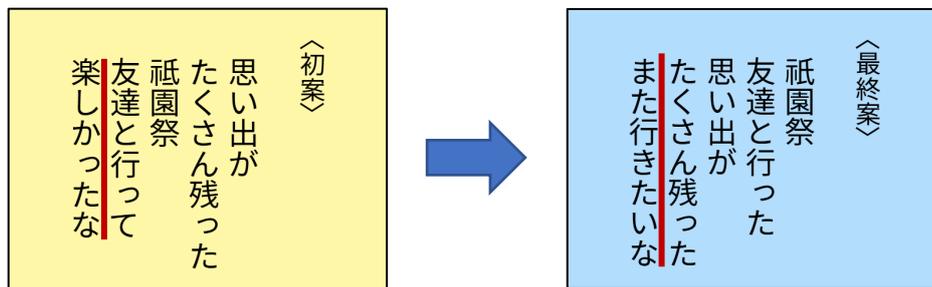
初案では四句・結句が八音のためリズムがもたつく印象があったが、推敲後は短歌のリズムに合わせて言葉を書き換えることができた。また、「倒れこむ」と表現することでスマッシュの速さが強調され、より躍動感溢れる短歌になった。



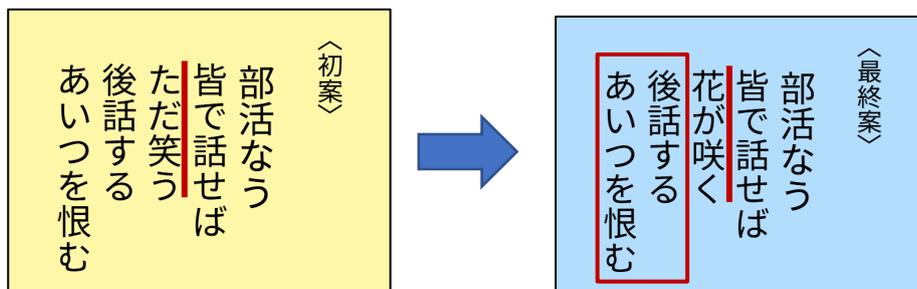
初案では「虫たち」と表現していたのを「虫ども」に変えたことで、やや敬意が低いニュアンスが加わり、虫の鳴き声の騒がしさや、なかなか眠れずに悶々としている様子がありありと伝わってくる短歌になった。



「あってさ」や「震えたよ」のように強調や呼びかけを意味する間投助詞を用いることで、友人同士の会話のような親しみやすい印象を与える短歌となった。また、「手が震える」と表現したことで「みそきん」にのぼす手が感動で震えている様子も伝わってくる。



初案では心情語を使って気持ちを表していたが、最終案では「また行きたくない」と表現したことで心情語を用いずに、楽しかった気持ちを表現することができた。



みんなで笑っている様子を「花が咲く」と表現し、比喩を用いて短歌を作ることができた。四句・結句の「後話する あいつを恨む」は生徒が書いた解説文によると、「面白かった話を後々掘り返して笑わせてくる友達を恨んだこと」を表現しているとのことだった。ただし、「後話」は後日談や後から文句を言われることを意味する言葉であり、語句の誤用がみられたため、助言をして再度推敲を行わせた。

生徒作品例

今年度4月に富里中学校に着任し、3年生1クラスの国語科を担当。印教研提案について知る。

前任校までの授業実践においても、折々、また行事後等に担当学級の全生徒に短歌や俳句を詠ませて、全員分の作品を廊下掲示してきた。そこで、本校でも同様に実践。

1学期中に3回短歌を詠ませた。

初回は、4月当初に教科書掲載の詩「春に」を学習（鑑賞）後、「中3の春」を主題に短歌を読んだ。2回目は6月末「初夏～梅雨～夏」という主題で。3回目は夏休み直前、文集ひざし応募を目的に、1・2回目何れかの自作を推敲手直し、または新たに新作を詠むという取り組みを行い、1作品を提出させた。

以下に、3回目の提出作品を列挙する。（☆印）

1	男	夏の気温 温かくなるこの季節 梅雨明け表す 晴天の空	
2	男	暖かい 春のお花が 咲き始め 春のおとずれ 心をつつく	
3	女	春風が 私の背中を 押している カのままに 走りだす	
4	女	最悪だ 朝目覚めると うねり髪 梅雨も私も ほら雨もよう	☆
5	男	青い空 ギラつく太陽 光る道 燃える猛暑に 蝉が喜ぶ	☆
6	男	春の風 日に日に 舞い散る 花びらが 春のおわりを 告げて去る	
7	女	なれてくる この教室と 仲間たち 新たに 進む ピンクの花道	
8	男	夏の海 海の幸には 逆らえず 飯に溺れて 浜に寝転ぶ	
9	男	夏の朝 部屋にたちこめる 灼熱の 空気部屋に入れば もう丸焼きだ	
10	女	夏祭り 提灯ごしの 夜空には 火薬でできた 大輪の花	
11	女	初夏の空 問いかけてみる 帰り道 進路のことは まだ曖昧で	
12	女	梅雨がすぎ 初夏が始まる 輝るそら 照らされる なつ 輝く星粒	
13	女	快晴の下 ひまわりいちりん 目が合った 日差しの刺激 夏の始まり	
14	男	カーテンの すきまからさす 夏の陽に だらけた時間 とけてく心	
15	女	梅雨終わり 晴天映す 水たまり 太陽眺める つぼみの朝顔	
16	女	届かぬ手 のぼれぬステージ 後ろから 強く踏み足 存在証明	
17	男	春の風で 花びらが散る その日には 満開だった あの木がとてもさみしい	
18	男	十五歳 焦りが走る 胸の奥 叫び出したい 春の日のこと	☆
19	男	今年の夏 勉強するぞ 絶対に 夏明けテスト 高得点だ	
20	女	春になり 外の景色は ピンク色 桜の花で 色鮮やかに	
21	女	春風に 吹かれて落ちる 桜の葉 スタートラインに 立つ私	
22	女	青空に 桜の雨が 降り注ぎ うれしさもあり さみしさもあり	
23	男	最後の年 すべてやりきる 中三の夏 一年たてば もう卒業生	
24	男	夏の季節 日が出て来た 初夏の空 夕方でもなお まだ明るい空	
25	男	夏の空 宵の明星 みていると 夏も心も 満ち足りている	
26	女	春に咲く 桜の花が 降り注ぐ 私の心も 満たされる	
27	女	夏休み 涼しい部屋で 一人きり 机と相棒 セミと友たち	
28	女	春の風に 桜の葉が 舞い落ちて 心ゆさぶる 私の気持ち	
29	男	暑中下で 点々と鳴く セミの声 空は快晴 梅雨明けの空	
30	女	受験生 勉強するぞ がんばるぞ 母にいわれて やるきがうせた	
31	男	涼風の下で学ぶ 鍛錬夏 これこそ私の 十五の夏	
32	男	暑い夜 雲一つ無い 星空だ 今年も見れた 夏の三角	

国語の力の違いが個々に大きくあり、短歌を「詠む」には至らず、短歌に「取り組む」のが精一杯という生徒も少なからずいるので、音韻面（字余りや字足らず、特に字余り）に制約に関しては、指摘・アドバイスは行うが、強く矯正させるという指導ではなく、書きたい気持ち・内容を優先させた。その結果、字余りが多くなっている。字足らずも数首ある。今後、支援していきたい課題ではある。

次に、上記から三首抜粋して、作品完成までの流れ等を記述する。

一首目は、4 の短歌を挙げる。4月には「3年生 心が躍る 新春夏 時がたつたび 焦る秋冬」と、詠歌した。「春夏秋冬」を意識した作品だった。6月には「さいあくだ 朝目覚めるとうねり髪 梅雨も 私も 雨もようだね」と詠んだ。そして「雨もようだね」を一工夫、「ほら雨もよう」と直して、4の歌が完成。自身の解説は「梅雨の時期独特の湿気で、朝起きたら髪がくるくるうねっている。そんな髪を見て、私の気持ちは雨もよう。梅雨の天気も雨もよう。」とある。

4	女	最悪だ 朝目覚めるとうねり髪 梅雨も私も ほら雨もよう
---	---	-----------------------------

二首目は、18 の歌。こちらは4月に詠んだ歌。6月詠歌と、どちらを選ぶか迷いに迷った末に、こちらを選んだそうである。6月には、「最後の夏 心が高ぶる 10日間 仲間とともに 跳びこむメーン」と、剣道部員としての総体前の緊張とやる気、心の叫びを詠んだ。4月詠歌時の解説には「部活動や受験などに追いつめられる日々を表す」とあり、その時点では、詩「春に」の世界観を受け止めて詠歌しており、ここでもそちらを選んだとのこと。

18	男	十五歳 焦りが走る 胸の奥 叫び出したい 春の日のこと
----	---	-----------------------------

三首目は、5 の歌。作者は6月に「青い空 ギラつく太陽 光る道 燃える猛暑に 喜ぶ虫の声」と詠んだ。それを、7月に自身で「虫の声」を「蝉の声」に改作した。自身の解説に「きれいな青い空の中、太陽がジリジリ道路に当たって光っている。燃えるような暑さに、虫(蝉)が喜ぶ夏をイメージしました。」とあったので、「喜ぶ蝉」を強め、さらに音数も整うということで、アドバイスし、「蝉が喜ぶ」と改作した。

5	男	青い空 ギラつく太陽 光る道 燃える猛暑に 蝉が喜ぶ
---	---	----------------------------

2年2組の短歌

3つ〇を付けましょう↓

クラス	作 者	短 歌	↓
2年2組		春風が優しく吹いて桜咲き笑顔の花も満開見せる	
		夏休み受験勉強始めると決心したがやる気がでない	
		三年生受験勉強ひまがなくどこにも行けず家ひきこもる	
		二年生あつという間に終わっちゃう時がたつのははやく感じる	
		受験生一年後にはつらい日々点数わからず頂上のように	
		身長伸びは激しく服着れずだけどなんでだからだヒョロヒョロ	
		自分の手乾燥してく十二月はだがひりひり日焼けのようだ	
		大会で気合い入ってからまわり遠い遠い県へのきっぷ	
		冬の夜家族はこたつに集まって入れぬこたつ僕は別室	
		気がつくといきがまっしろ冬の朝あまりの寒さに手がこおる	
		いろいろな思いがあった一年間近づいている三年生へ	
		二年なりいろんなことに挑戦しこの一年は決して悔いなし	
		花粉症春になるほどひどくなりティッシュスカスカ顔はグチャグチャ	
		学年が一つ上がって緊張と新たな一年喜びあふれる	
		満足だ五キロもやせた夏休みおかしっぱいまたリバウンド	
		寒い朝こたつ入ってごはん食べふろも入らずしずむ太陽	
		やっと来た冬休みだとよろこぶとインフルエンザ感染してた	
		テスト明け花粉にのってとんできた受験勉強はじまるあいず	
		天の川ねがいを書いたたんざくにろうそくともし月にはしごを	
		めざましを止めて思うはけだるさと冬の寒さと朝のしずけさ	
		待ちわびたクリスマスきて胸躍るまんきつまんきつ今年の冬も	
		寒い冬雪積もらずに冬終わる花粉飛び散るはながズビズビ	
		テスト前タイムリミット二週間誘惑に負けゲーム三昧	
		三月の三年生を送る会緊張しつつも気合十分	
		総体で県大会であと一歩秋の大会リベンジ成功	
		花粉症授業が終わりティッシュ出し鼻水じゅり不協和音	
		やがて来る部活も終わり夏休み受験追われる日々に	
		朝おきた時間を見たら二度ねしたおきたときには夕方だった	
		卒業だ桜咲く日の学校は卒業生の笑顔の涙	
		テスト前勉強やるがやる気です危機感わかず低い点数	

2年3組の短歌

3つ〇を付けましょう↓

クラス	作 者	短 歌	↓
2年3組		蛍飛び見上げた月は顔かくし今日見た月は輝く笑顔	
		団結し勝ちとった賞声からし同じ光景見たいな次も	
		冬の朝寝た気がしない二度寝して食パンくわえ家かけまわる	
		本番でライトに光る笑顔でも楽器通して伝わる鼓動	
		積もるかな雪がふるふる期待する一滴の水手のひらの上	
		新学期桜とともに花粉とぶ外にでるのかゆううつになる	
		アイウエと選択せまり汗握る脳に響くは秒針の音	
		いつもよりそわそわしだす男の子欲しいものはチョコだけじゃない	
		おくり物中は全くわからない中をのぞけば愛と洋菓子	
		手作りの愛がこもったおくりもの中身をのぞけば大好きな菓子	
		大好きな優しい背中明日からは追うことができず泣き出す私	
		閉める窓気力と汗が床に落ち横目で見てる隣の部活	
		友に負け夕日が沈む放課後に強くなるため自主練へ行く	
		四校時おなかすいたな時計見る給食まだかと戦う睡魔	
		うす暗い日の出はまだの朝練へ白い息だし気分があがる	
		晴れた日の花びらおちてスマホ見る桜の下で風が吹いてる	
		月曜日朝一番に思うのは現実逃避今日は休日	
		放課後に家帰りふと鳥の声春が来たなと一人ほほえむ	
		送る会有志合唱スカートでみんなをかわす俺らの時間	
		リベンジだエキサイティング決勝戦全力つくしぼやける視界	
		ラストプレーシュートうたれて時止まる動き出す頃悔しの涙	
		クラス替え鼓動高まる集会で積もり続ける不安と期待	
		一年を思い返すとアルバムだ楽しい記憶心の底に	
		はじまりのチャイムはいまも慣れぬまま答案用紙ペン走らせる	
		ギャハハハハ拍手とともにひびく学年フロア怒られすぎた	
		引退後それでも何度も救われた気づいたあの日々輝いていた	
		先輩の背中見送り次の冬今度は自分不安が迫る	
		学年があがってしまうアセアセの心拍数があと一年も	
		ひらひらと桜まいちる先輩とのわかれかなしき卒業式	

2年4組の短歌

3つ〇を付けましょう↓

クラス	作者	短歌	↓
2年4組		冬の朝ドアをあけたらただ思うこのつめたさはれいとうこだな	
		教室の窓から見える外の木々季節と共に変わりゆく色	
		夏の空キラキラ光るはじめての彗星を見た星がほしいな	
		冬の空見える星座はオリオン座窓から見える無数の星座	
		焼きつけるあなたの姿会えたなら何度願うか時を止まれと	
		海来いと快晴の下舞う様にかける足跡追うは潮風	
		振り返る一番はない思い出よ選びきれない春夏秋冬	
		今日からはごみを燃やすのためらって削減しよう二酸化炭素	
		エンドラン大飛球が飛んでいくサイン無視してベンチブチ切れ	
		行ってきますその一言で桜舞い新たな旅へ桜と共に	
		アンコンの前夜に楽器吹きすぎてその口のままごはんを口に	
		ダイエットプヨプヨの腹ほそくして五キロ減少成功したい	
		なえさがる月曜とかなえさがるベットでゴロンいい気分で	
		思いつき描いては消して灰色にためしに塗れば色鮮やかに	
		毎日の給食メニュー見るたびに目を輝かせ腹をすかせる	
		太陽も起きたくないよさむい朝私もおなじずっと寝てたい	
		帰り道通りすぎてくランドセルふと思い出すなつかしいこえ	
		もう朝だ二度寝したいのだがしかしアラームうるさく起きる日々です	
		お風呂場でとたんにかぶ黒歴史やりなおしたいことができることなら	
		休日は時間のように過ぎていく夢中になると来週が来る	
		一週間平日長く感じるが休日短く感じるのなぜ	
		真っしろのありふれた日にさよならをキミのおかげで彩った日に	
		球審の声で始まる夏総体一番熱く燃え尽きた夏	
		日がしずみ最終回がはじまってみんなでつなぎサヨナラヒット	
		気にしないむかい風でも大雨も目指してるのはナンバーワンのみ	
		一年間部活練習努力した優勝めざす夏の大会	
		風あびるチャリで走る休みの日イオンモールでみんなと遊ぶ	
		ふわふわな雲の上飛ぶ鳥のようピューンと聞こえ消えてなくなる	

2年5組の短歌

氏名

3つ〇を付けましょう↓

クラス	作 者	短 歌	↓
2年5組		ツーアウト最終回のグラウンド外野に飛ばせフルスイングで	
		桜咲く門をくぐったあの日からもうすぐ一年あつという間に	
		ナイスプレー歓声あがる画面ごし冬にも勝る高校バレー	
		お正月こたつに入りおせち食べお年玉見え止まらないはし	
		窓を見る思いつかない2時間目国語の授業私の短歌	
		春が咲き散る梅吹雪見送れば希望と共に次の世界へ	
		大会で寒さと視線で動けない震える体とびでる心臓	
		夏休み日焼け止めせず紫外線手に入れたのはポッキーな肌	
		もう少し「バン」鳴り響く夏きざす消えてなくなる時間とともに	
		月曜日勉強しっかり取り組んでまだまだ不安明日のテスト	
		運動は努力するべき勝てるのだ羽を打つこそ自分の努力	
		甲子園憧れ思う今の僕三年後僕何を思うのか	
		燃え尽きた高校サッカー火をつける来年こそはぼくらのぼんだ	
		先輩の輝く姿なつかしい仲間と一緒に思いをつなぐ	
		初日の出早ねしたけど間に合わず赤く染まった空はもうない	
		退屈な雪降らぬ冬外へ出ずふとんくるまり時間過ぎてく	
		チャイム鳴り名前書きあげ解き始め少し待ってよ二つの終わり	
		三年生すべてのことに最後つき少しさびしく少し嬉しい	
		ドピューン学校帰り風たっぷりチャリ進まん風どっかいけ	
		暑い日に友達いっしょにペダル踏み潮の匂いが近づいてきた	
		ねむい朝朝練さぼり先生におこられたんだあすは早起き	
		いい天気すごくすずしい秋の山次の日風邪に天井見てた	
		テスト前理科のプリント予想外自信満々十四点	
		手帳を手になぎりしめ記録する初めは書くが三日でなくす	
		ありがとうテニスコートに立つ自分一年生にたくした気持ち	
		甲子園叫び上ったスタンドの声カキーンと響く夏空（の甲子園）	
		手をのばしジャンプをするもとどかない大砲のような相手のスパイク	